本誌は認知症ケア研究に関する投稿論文（原著、短報、総説、事例報告、地域実践報告）および特集、その他編集委員会が適当と認めたものを掲載する。言語は日本語（または英語）とする。採択された論文は認知症介護情報ネットワーク（DCnet）にてオンライン出版する（紙媒体の出版は行わない）。

英文名称：Tokyo Journal of Dementia Care Research とし、略称は Tokyo J Dementia Care Res を用いる。

【本誌の目的】

認知症介護研究・研修センターに關係する認知症ケア研究や認知症介護指導者養成研修等の研修修了者の認知症ケア研究の成果を、国内外に広く伝えることを目的とする。また、新しい研究方法を確立するための萌芽研究を支援することを目的とする。このため、オンライン出版により、医中誌や J-STAGE などに登録され、多くの人に検索され、誰でも無料でダウンロードできるようにする。また、迅速な査読や掲載を目指す。

【発行】

オンラインジャーナルとして認知症介護情報ネットワーク（DCnet）ホームページ <https://www.dcnnet.gr.jp/> に随時掲載する。また、J-STAGE に掲載する（2018年度以降）。ダウンロードは無料とする。

【投稿資格】

創刊当初は、投稿論文の責任著者は、認知症介護研究・研修センター職員や客員研究員等、およびセンターが主催する研修の修了者とする。その他の関係者については、編集委員会において審議する。総説は編集委員会からの依頼を原則とする。

必ず著者全員が投稿前に論文を精読し、共著者となることを了解していること。

将来は、国内認知症ケア研究者の誰もが投稿できる研究誌を目指す。

【利益相反（COI）申告】

論文の全著者は、厚生労働省が定めた様式に準じて、投稿する年の前年（1～12月）を対象として利益相反（COI）申告をしないといけない。論文の責任著者は、投稿の時点で、全著者の COI 申告をとりまとめて提出する。COI 申告様式は DCnet ホームページからダウンロードする。編集委員会で COI に問題がないか審議する。COI の内容は、論文の末尾に開示する。提出された COI 申告書は 2 年間保存された後、破棄される。

COI が問題となる論文は、原則的に掲載しない。

＜COI が問題となる例＞

* 照明器具メーカー A 社の製品を取り付け、睡眠が良好になる効果を示した研究で、A 社から製品や研究費が提供されているケース。また、論文執筆者が、日頃 A 社の宣伝をして謝金を得ているケース。

【投稿方法】

原稿は A4 用紙に 11 ポイント、和文 MS 明朝、英文 Century の文字で印字し、1 ページ 40 行、余白は上下左右とも 2.5 cm とし、タイトルページから連続したページ番号をふる。表についても同じフォントを使用する。表や図・写真は引用順に番号を付ける。

投稿は、電子投稿に限る。テキスト部分（本文、表など）は Microsoft Word® 文書ファイルもしくは RTF 形式ファイルとし、図・写真等は 1 枚ごとに BMP、非圧縮 TIFF（Windows か Mac かを明記）あるいは PSD（Adobe Photoshop®）画像ファイル、JPEG ファイル、PowerPoint ファイルとする。ただし、写真の場合は、PowerPoint®に貼らず、画像ファイル形式のまま送付すること。表については Microsoft Excel®のファイルとしても良い。図表はページ幅 17cm を念頭に置いて作成すること。ファイル名には筆頭著者の名字を入れる。いずれもわかりやすいファイル名をつける。

【投稿論文送付先】

下記へ電子メールの添付ファイルで投稿する。

認知症介護研究・研修東京センター 認知症ケア研究誌編集委員長

e-mail: jdcrc@dcnet.gr.jp

【査読】

投稿された原著・短報・事例報告等は 2 名の、総説は 1 名の査読者による報告に基づいて編集委員長が採否を決定する。査読は査読委員または編集委員会が適切と認めた者に依頼する。

【生命倫理の尊重】

本誌に投稿する論文は、生命倫理に十分な配慮がなされたものであること。介入研究の場合は、研究倫理審査を受けたものとする。後ろ向き研究については、倫理審査を受けることが望ましい。

【投稿形式別事項】

(1) 原著

原著論文は認知症介護に関する未発表の研究結果に限る。なお、学会発表は未発表と扱う。他誌に投稿中の論文は受理しない。英文も受け付けるが、投稿前に必ず英文チェックを受けること。

仕上がりで 10 ページ（下記「仕上がりページ数の目安」を参考にす）を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 論文要旨（800 字以内、英文の場合 250 語以内の Abstract で目的、方法、結果、結論の順で項目立てをする）、③ キーワード（単語）5 つ以内、④ 本文、⑤ COI 開示と謝辞、⑥ 引用文献、⑦ 表とその説明、⑧ 図・写真とその説明とする。

記述内容については、タイトルページは著者全員の氏名と所属・住所、責任著者の連絡先、公表可能なメールアドレスと、表、図・写真の枚数を記載する。タイトル、著者名は日本語と英語の両方で記載する。

本文は、はじめに(Introduction)、方法と対象・材料(Materials and Methods)、結果(Results)、考察(Discussion)の順に、分けて記載し、見出し番号は次のとおり記載する。

例)

方法

1. □□□□□□□□□□
 - (1) □□□□□□□□□□
 - 1) □□□□□□□□□□
 - ① □□□□□□□□□□

文献名、人名、地名、化学名などで日本語として日常化していないものは原語を用い半角とする。数量は CGS 単位により半角欧字で表し、数字と単位の間は 1 半角スペースあける。ただし、℃、% の場合はあけない。α、β、γ などは本文が日本語の場合は全角 JIS フォントを、本文が英文の場合は symbol フォントを使用する。

薬品名は一般名を原則とし、必要なときだけ商品名を付記する。なお、一般の外国語単語の頭文字は、文章の最初、固有名詞、およびドイツ語名詞を除き全て小文字にする。句読点コンマ(,)、ピリオド(.)を使用する。

文献の引用は「雑誌」では著者名、題名、雑誌名、巻数、通巻頁数の始めと終わり、西暦発行年を、「単行本」では著者名、書名、発行社名、西暦発行年を、「共著の単行本」では著者名、題名、書名(編集者名)、頁数の始めと終わり、発行社名、西暦発行年を記載する。著者名、および編者名は、日本語の場合には姓名を、外国語の場合には姓と名のイニシャルを記載する。文献は、本文の出順とし、本文中の引用箇所番号(例:1))を入れる。著者が

3 名以上のときは、3 名までを記載し、残りは「他」または「et al」とする。誌名は医中誌や PubMed/Index Medicus のスタイルに準拠する。コンマ、ピリオドの省略については下記例を参照のこと。なお、外国語、数字は半角とし、コンマ、ピリオド、コロン、セミコロンの後は 1 半角スペースあける。

<和文・英文文献の記載例>

- 1) 山口晴保、中島智子、内田成香、他：認知症疾患医療センター外来の BPSD の傾向：NPI による検討. 認知症ケア研究誌 1:3-8, 2017.
- 2) Yamaguchi H, Nakajima T, Uchida H, et al: Trends of BPSD, evaluated with NPI, in outpatients of the Medical Center for Dementia. Tokyo J Dementia Care Res 1:3-8, 2017.
- 3) 前橋市認知症初期集中支援チーム：認知症の本人・家族の困りごとを解決する医療・介護連携の秘訣(山口晴保、山口智晴編). 共同医書出版, 2017.
- 4) 中村考一：職場内教育(OJT)の方法の理解と実践Ⅱ(技法). 認知症介護実践リーダー研修標準テキスト(認知症介護研究・研修センター監修), pp253-317, ワールドプランニング, 2016.
- 5) 長田久雄、佐藤美和子：認知症の行動・心理症状の考え方. BPSD の理解と対応—認知症ケア基本テキスト(日本認知症ケア学会編), pp1-11, ワールドプランニング, 2011.
- 6) Maki Y, Yamaguchi T, Yamaguchi H: Anosognosia in Alzheimer's disease dementia. In: Alzheimer's Disease, pp1-16, Nova Science Publishers, 2016.

表とその説明、図・写真とその説明には本文を参照しなくてもそれらを理解するために十分な説明をつける。図・写真のタイトルと説明は下に、表のタイトルと説明は上に記載する。

表、図・写真は、そのまま製版できるような鮮明なもので、幅 17 cm×高さ 21 cm 以内の大きさとし、十分な解像度を持つファイルとする。300DPI(1 インチ、つまり 2.5cm 当たり 300 ドットの解像度)を目安とする。

(2) 短報 (原著論文として扱う)

認知症介護研究における斬新な手法や萌芽的な研究成果を発表する。刷り上がりで6ページ(下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする)を超えない。原稿は、原著の書き方に準ずる。引用文献は10件以内とし、原著の規定に準じて記載する。

(3) 総説

総説は、編集委員会からの依頼を原則とする。認知症介護研究の推進に役立つ知識の整理、新しい考え方の紹介や仮説の提唱などを目的とした総説(他誌に未発表のもの、投稿中でないもの)とする。原稿の書式は原著の規定に準ずるが、要旨は不要とし、項目立てをしてわかりやすい書き方が望まれる。刷り上がりで15ページ(下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする)を超えない。

(4) 事例報告

本誌は認知症介護現場での事例(症例)の報告を歓迎する。未発表の(他誌に投稿中でない)ものに限る。刷り上がりで6ページ(下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする)を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 要旨(400字以内)、③ キーワード(単語)5つ以内、④ 本文、⑤ CIO開示、⑥ 引用文献、⑦ 表、⑧ 図・写真の順とする。謝辞は本文の最後につける。記述内容については、タイトルページ、表、図・写真、引用文献等は原著の規定に準ずる。

(5) 地域実践報告

本誌は地域実践例の報告を歓迎する。未発表の(他誌に投稿中でない)もので、単に実践の報告ではなく、その成果を示し、提言を示すものが望まれる。刷り上がりで6ページ(下記「仕上がりページ数の目安」を参考にする)を超えない。原稿は、① タイトルページ、② 要旨(400字以内)、③ キーワード(単語)5つ以内、④ 本文、⑤ CIO開示、⑥ 引用文献、⑦ 表、⑧ 図・写真の順とする。謝辞は本文の最後につける。記述内容については、タイトルページ、表、図・写真、引用文献等は原著の規定に準ずる。

【仕上がりページ数の目安】

1 ページ当たり、日本語 1,300 字、英語 500 語、文献 20 件をおよその目安として計算すること。

【著作権・出版権】

本誌に掲載された論文の出版権は、認知症介護研究・研修東京センターに帰属するが、著作権は責任著者に帰属する。

【校正】

本文の内容(図表も含む)の修正は最小限とする。また、著者校正は1回のみとし、メールで受け取り後、必ず5日以内にメールまたはFaxで返送する。

【掲載料・別刷料等】

掲載料は無料とする。

別刷りは、責任著者に PDF ファイルを無料で送付するので、責任著者が印刷して自由に配付できる。責任著者が所属する施設・団体等のホームページに論文ファイルを掲載することを認める。

【編集委員（○編集委員長）】

○山口晴保、中村考一、内藤典子、滝口優子、花田健二、山上徹也（群馬大）、藤生大我（編集事務担当）

【査読委員】

伊藤美智予（名古屋大）、内田陽子（群馬大）、宇良千秋（都老研）、奥山恵理子（浜松人間科学研究所）、木村修代（あさひが丘ホスピタル）、佐藤信人（東京センター）、田中聡一（高崎健康福祉大）、田中志子（内田病院）、内藤佳津雄（日本大）、結城拓也（和泉サナホーム）